

2016（平成 28）年 4 月

開館 90 周年記念展
木々との対話 — 再生をめぐる5つの風景

Dialogue with Trees—Five Stories of Rebirth and Renewal

2016（平成 28）年 7 月 26 日（火）～10 月 2 日（日）

1926（大正 15）年 5 月、新緑の季節に上野公園に開館した**東京都美術館は、今年、2016（平成 28）年に開館 90 周年の節目を迎えます。**

「上野の杜」は都会のオアシスとして、長い間人々に親しまれ、愛されてきました。同時に、木は家屋などの建築物、仏像や家具、工芸品の材料としても身近な存在であり、長い美術の歴史の中で伝統的な素材として大切に使われてきました。

当館では、この「木」に改めて着目し、開館 90 周年記念展として、木に向き合う 5 人の作家—**國安孝昌、須田悦弘、田窪恭治、土屋仁応、そして舟越桂**—による企画展「木々との対話—再生をめぐる 5 つの風景」を開催します。

命ある存在として、そして循環し再生する有機体である木に、私たちは心を寄せ、希望を見出してきました。3.11 から 5 年を経た今年、本展では「木と再生」をキーワードに、**各世代の現代日本を代表する美術家 5 名**による**木彫とインスタレーション、「5 つの風景」**を紹介いたします。

硬質で柔軟かつ堅牢そして繊細な木という素材、そして再生あるいは希望の象徴としての木。本展では、そうした木に対する希望のイメージを重ねながら、それぞれ独自の表現を追究する 5 人の作家の現在の表現世界を、存分に体感していただくことができるでしょう。



開催概要

- 展覧会名 開館 90 周年記念展 木々との対話——再生をめぐる 5 つの風景
Dialogue with Trees—Five Stories of Rebirth and Renewal
- 会 期 2016 (平成 28) 年 7 月 26 日 (火) ～10 月 2 日 (日)
- 休 室 日 月曜日 (ただし 9 月 19 日 (月・祝)、9 月 20 日 (火) は開室)
- 開室時間 9 時 30 分～17 時 30 分 (入室は閉室の 30 分前まで)
- 夜間開室 毎週金曜日は 20 時まで。ただし、8 月 5 日 (金)、6 日 (土)、12 日 (金)、13 日 (土)、
9 月 9 日 (金)、10 日 (土) は 21 時まで。9 月 23 日 (金)、30 日 (金) は 17 時 30 分
まで (入室は閉室の 30 分前まで)
- 会 場 東京都美術館 ギャラリー A・B・C
- 主 催 東京都美術館 (公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 協力 (予定) ギャラリー小柳、西村画廊、メグミオギタギャラリー、
上野「文化の杜」新構想実行委員会
- 特別協力 (予定) 新日鐵住金株式会社
- 観 覧 料 一般 800 円、団体 (20 名以上) 600 円、65 歳以上 500 円、大学生・専門学校生 400 円
- ・ 高校生以下無料 (要証明)
 - ・ 特別展「ポンピドゥー・センター傑作展—ピカソ・マティス・デュシャンからクリストまで—」(会期:
6 月 11 日(土)～9 月 22 日(木)) のチケット (半券可) を会場入口で提示の方 (1 枚につき 1 人) は、
一般当日料金から 300 円引き
 - ・ 8 月 20 日 (土)、21 日 (日) および 9 月 17 日 (土)、18 日 (日) は「家族ふれあいの日」により、18
歳未満の子を同伴する保護者 (都内在住、2 名まで) は一般当日料金の半額 (要証明)
 - ・ 8 月 17 日 (水)、9 月 21 日 (水) は「シルバーデー」により、65 歳以上の方は無料 (要証明)
 - ・ 10 月 1 日 (土) は「都民の日」により、どなたも無料
 - ・ 身体障害者手帳、愛の手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とそ
の付添の方 (1 名) は無料 (要証明)

○展覧会特設サイト <http://www.90th.tobikan.jp> (2016 年 5 月中に開設予定)

○託児サービス (パパママデー)

以下の日程は、館内で託児サービスを実施しています。

7 月 30 日 (土)、8 月 7 日 (日)、8 月 12 日 (金)、
8 月 21 日 (日)、8 月 27 日 (土)、9 月 2 日 (金)、
9 月 10 日 (土)、9 月 18 日 (日)

詳細はこちらをご確認ください。

<http://www.tobikan.jp/guide/nurseryservice.html>



展示内容

國安孝昌（くにやす・たかまさ）

國安孝昌は、1980年代から空間を編むように木と陶ブロックを積み上げる、ダイナミックなインスタレーションに一貫して取り組んでいる作家です。近年では各地において、「竜神」や「水神」というタイトルの、私たちが忘れかけている精神性や伝承を象徴するような作品づくりを行っており、仮設の構築物は屋外でも屋内でも強い存在感を持ち、周囲の空間を一変させてしまいます。

本展でも、天井高10メートルを超える当館独特な巨大空間を生かしたスケール感と、密度の高いインスタレーションに挑みます。丸太と陶ブロックを編みこむように積み上げる、シンプルな組み合わせの作品は、古代のモニュメントを彷彿とさせます。どのような空間にでも調和し、場所の力を生かすことができる、と語る國安による、生命力溢れる芸術にご期待ください。



國安孝昌《雨引く里の竜神》2013年
雨引の里と彫刻 2013 展示風景

**國安孝昌**

1957年 北海道生まれ

1981年 北海道教育大学教育学部特設美術科卒業

1983年 筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了

1989年 第13回現代日本彫刻展で兵庫県立近代美術館賞受賞

1999年 第18回現代日本彫刻展で大賞、神奈川県立近代美術館賞、市民受賞の3賞を受賞

1996年 文化庁在外芸術家派遣研修生として一年間ドイツに滞在。

現在 筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻・筑波大学芸術系 教授

主な個展／

2007年 國安孝昌展「森の竜神」金津創作の森（福井）

2013年 「静かに行くこと、遠く内省すること」ギャラリーなつか（東京）ほか多数

主なグループ展／

1987年 第23回「今日の作家<位相>展」横浜市民ギャラリー（神奈川）

1990年 プライマル スピリットー今日の造形精神展、「現代の土」展 東京都美術館（東京）

2006年 第三回大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ（新潟）

2013年 「アーティストファイル 2013」 国立新美術館（東京）ほか多数



國安孝昌《遠い地平》2014年 個展「遠い地平」展示風景

お問い合わせ 東京都美術館 広報担当 山崎・進藤

〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36

TEL 03-3823-6921 FAX 03-3823-6920

須田悦弘（すだ・よしひろ）

須田悦弘は、本物と見まがうほど精緻に、雑草や花を彫刻し、その彫刻を置くインスタレーションにより知られる気鋭の美術家です。

須田の巧みなインスタレーションは、普段、着目しないような、なにげない場所に、存在するはずのない植物を出現させます。それは、私たちが日常を過ごす中で当たり前ととらえ、見過ごしがちなものに対するまなざしを取り戻すきっかけを与えてくれるものです。また、彫刻本体のみならず、作品が置かれる空間や環境にも細心の注意を払い、完成度の高い、緊張した空間を作り出します。

本展では、通路や隙間に不意に登場する、繊細な新作のインスタレーションをご覧ください。さらに、展示室以外（美術情報室ほかを予定）にも展示するなど、前川國男が設計した当館の建築との競演も見所です。



須田悦弘《バラ》2008年（参考作品）

**須田悦弘**

1969年 山梨県に生まれ

1992年 多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業

主な個展／

- 1993年 「銀座雑草論」銀座1-4丁目パーキングメーター（東京）
- 1999年 「ハラドキュメント6：須田悦弘 泰山木」原美術館（東京）
- 2006年 「須田悦弘展」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）
- 2012年 「須田悦弘展」千葉市美術館（千葉）ほか、海外での個展も多数

主なグループ展／

- 2000年 「拈華微笑（ねんげみしょう）」大倉集古館（東京）
- 2008年 「ネオテニー・ジャパン：高橋コレクション」鹿児島県霧島アートの森（鹿児島）
- 2014年 「せいのもとで lifescape」資生堂ギャラリー（東京）
- 2015年 「燕子花と紅白梅：光琳アート 光琳と現代美術」MOA美術館（静岡）ほか多数

須田悦弘《桔梗》2003年
（参考作品）

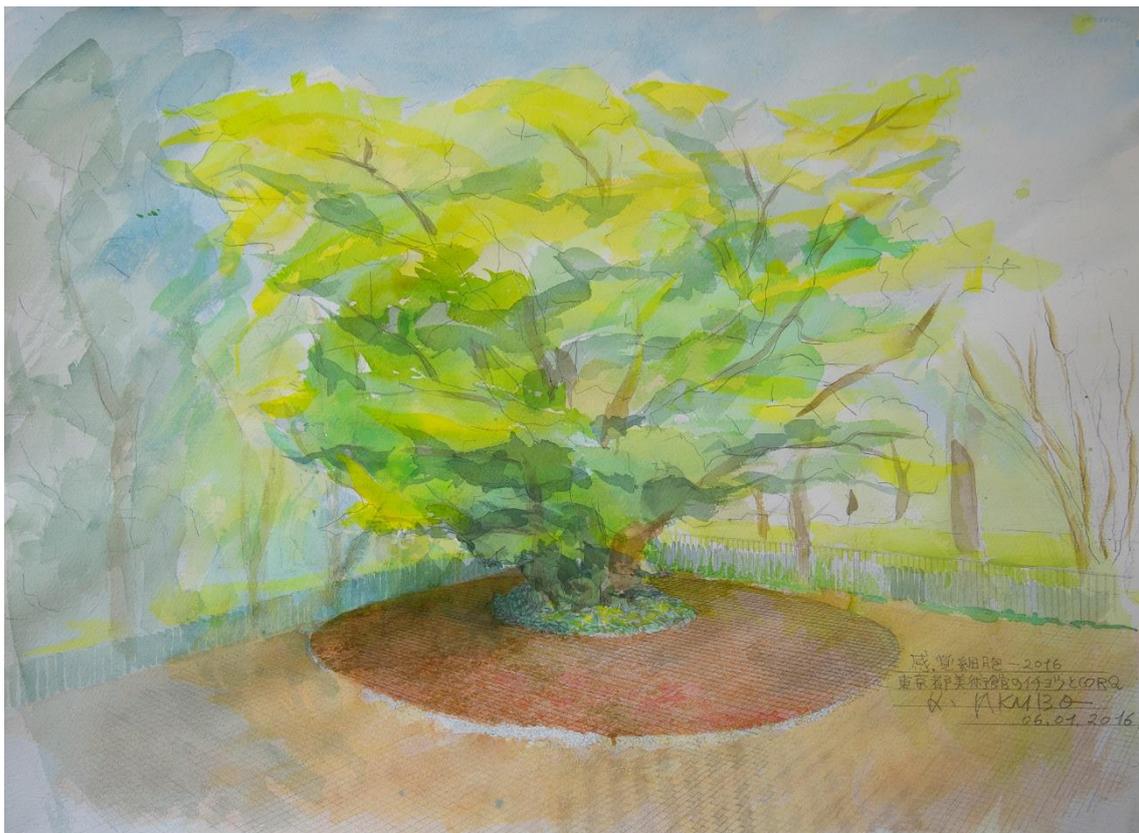


田窪恭治（たくぼ・きょうじ）

田窪恭治は、フランス・ノルマンディの「林檎の礼拝堂」や「こんぴらさん」の再生プロジェクトで知られるベテランのアーティストで、多くの国際展に出品し、その実績は数々の受賞と高い評価を得ています。

本展では、田窪が再生プロジェクトを手がける以前の1980年代に精力的に取り組んだ、廃材の上に金箔を貼るアッサンブラージュのシリーズの作品を展示します。このシリーズで田窪は、命を終えかけた廃材というものの価値を転換させて、尊く、高貴なオブジェへと再生させています。そして、田窪が美術館やギャラリーという室内での活動から、屋外の風景、そして再生へと、表現の手法やフィールドを越境してゆく軌跡をたどります。

さらに、本展のための新作として、当館の東京大空襲で被災したイチョウと、コルク（CORQ）というコルテン鋼のブロックを敷き詰めるインスタレーションにより、被災から復活を遂げた大きなイチョウとのコラボレーションによる風景芸術に挑戦します。



田窪恭治《感覚細胞－2016・イチョウ》展示イメージスケッチ（水彩）2016年

**田窪恭治**

- 1949年 愛媛県生まれ
1972年 多摩美術大学絵画科油画卒業
1975年 第9回パリ国際青年ビエンナーレに参加
1984年 第41回ヴェネツィアビエンナーレに参加
1987年 『絶対現場—1987』実施（東京神宮前）
1989年 現代オペラ『ゴーレム』舞台美術制作
1989～99年 『サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂』再生
1997年 第4回日本現代藝術振興賞（絵画・立体映像・建築）受賞
1999年 第12回村野藤吾賞受賞
2000年 フランス共和国芸術文化勲章オフィシエ受賞
2000～11年 金刀比羅宮文化顧問就任、『琴平山再生計画』に取り組む

主な個展／

- 1971年 「田窪恭治—イメージ裁判展」村松画廊（東京）
2001年 「田窪恭治—オブジェから風景へ」愛媛県美術館（愛媛）
2011年 「田窪恭治展 風景芸術」東京都現代美術館（東京）

主なグループ展／多数参加

田窪恭治《感覚細胞—2016・イチョウ》
展示イメージスケッチ（コンテ）2016年

土屋仁応 (つちや・よしまさ)

土屋仁応は、実在の動物や、神話や伝説の生き物を、仏像彫刻の技法を取り入れて彫刻し、独自の技法による着色を施す、若い世代を代表する気鋭の木彫作家です。

生まれたばかりの動物たちや、竜や麒麟などの幻獣の世界へと誘います。一見かわいげな動物彫刻は、形態も質感も彩色も独特であり、現実とも幻想ともつかない不思議な気品とオーラに包まれています。か弱く、あどけないすがたの生き物の彫刻は、移ろいやすい生命の、変化する瞬間を永遠にとどめるものです。無垢の魂を繊細に取り出したかのような彫刻は、見るものに生まれ出ずる喜びや、はかなく、傷つきやすい命の尊さを感じさせてくれます。本展では、旧作とともに新作の大型彫刻を発表します。



土屋仁応《森》(部分) 2012年 個人蔵 撮影：竹之内祐幸

**土屋仁応**

1977年 神奈川県生まれ

2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究分野
博士課程修了

主な個展／

2009年 MEGUMI OGITA GALLERY (東京・2011、2012、2015にも開催)

2013年 「彩色木彫 土屋仁応展」日本橋高島屋(東京・大阪、新宿に巡回)

2015年 「MEDITATION」 JASKI ART GALLERY・アムステルダム など

主なグループ展／

2008年 企画展示「ワット!どうぶつ What? アート展」十和田市現代美術館(青森)

2010年 特別展「創造と回帰 現代木彫の潮流」北海道立近代美術館(北海道)

2014年 「しむらのいろ meets 土屋仁応展 -志村ふくみ・志村洋子・土屋仁応-」ギャラリーフクミシムラ
(京都)



土屋仁応《牡羊》2012年 個人蔵
撮影：竹之内祐幸

舟越 桂 (ふなこし・かつら)

舟越桂は、気品と格調の高い木彫による肖像彫刻と「スフィンクス・シリーズ」など異形の人物像で人気の高い、今日の日本を代表する彫刻家です。大理石よる目の表現と美しい彩色も魅力となり、人物像でありながら風景や物語を感じさせる奥行きのある作風は、多くの人々に愛され続けています。半身の肖像彫刻というスタイルを確立し、国内外で高い評価を得る一方、1990年代半ばには胴体と山が一体化した人物像など、異形の姿が登場しはじめます。2000年以降は裸体像に表現領域を拡げ、さらに近年では両性具有のスフィンクスのシリーズにも取り組んでいます。

舟越の彫刻は、悲しみや怒り、憎しみという負の感情も含めた、人間の存在そのものを肯定する、強いメッセージを放つものです。

本展では、これまで東京ではあまり展示することがなかった過去の作品の中から、スフィンクスのシリーズなどをご紹介しますとともに、最新作の彫刻とドローイングを発表いたします。



舟越 桂 《森の奥の水のほとり》
2009年 個人蔵 撮影: 渡邊郁弘
© Funakoshi Katsura, Courtesy of
Nishimura Gallery

**舟越 桂**

1951年 岩手県生まれ

1977年 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

1986年 文化庁芸術家在外研修員として一年間ロンドンに滞在

1988年 第43回ベニス・ビエンナーレ参加

1989年 第20回サンパウロ・ビエンナーレ参加

1992年 ドクメンタ IX 参加

1997年 第18回平櫛田中賞

2009年 第50回毎日芸術賞、第59回文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞

2011年 紫綬褒章受章。東京在住

主な個展／

1985年～ 「舟越桂」 西村画廊（東京）

2003～04年 「舟越桂 Works: 1980-2003」 東京都現代美術館（東京、栃木、北海道、香川、岩手、広島を巡回）

2008年 「夏の邸宅」 東京都庭園美術館（東京）

2012年 「舟越桂 2012 永遠をみるひと」 メナード美術館（愛知）

2015年～現在 個展『舟越桂 私の中のスフィンクス』が兵庫県立美術館、群馬県立館林美術館、三重県立美術館、新潟市美術館を巡回中

2016年 「舟越桂」 ギャラリー・クロード・ベルナル（パリ）ほか、海外展も多数

主なグループ展／国際展を含め参加多数

舟越 桂 《海をゆるすために》2016年
作家蔵 撮影: 渡邊郁弘

© Funakoshi Katsura, Courtesy of
Nishimura Gallery (参考作品)



お問い合わせ 東京都美術館 広報担当 山崎・進藤
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
TEL 03-3823-6921 FAX 03-3823-6920

関連プログラム

いずれも参加は無料ですが、本展のチケット（半券可）が必要です。

1、舟越 桂 講演会

日時：7月31日（日）15：00～16：30

場所：東京都美術館 講堂（定員 225 名）

※事前に整理券配布予定

2、夏休みの美術館 『木々のアトリエ』

日時：8月3日（水）～8月9日（火）限定オープン！（8日（月）は休室）

場所：東京都美術館 公募展示室 ロビー階 第3

- ・ 須田悦弘の公開制作や、土屋仁応、國安孝昌によるワークショップを開催
- ・ 作品制作にまつわる、道具や素材に触れられるハンズオン展示も予定



3、田窪恭治 アーティストトーク+《感覚細胞—2016・イチョウ》特別公開

日時：8月14日（日）14:00～15:00

場所：展覧会場内

4、いとうせいこう(作家、クリエイター)×須田悦弘 トークショー「植物に動かされる僕たち」

日時：9月2日（金）18：30～19：30

場所：東京都美術館 講堂（定員 225 名）

※事前に整理券配布予定

5、本展担当学芸員によるギャラリートーク+田窪恭治《感覚細胞—2016・イチョウ》特別公開

会期中に4回程度実施予定。なお、《感覚細胞—2016・イチョウ》は通常は非公開となります。

※詳細が決まりましたら、特設ウェブサイト（<http://www.90th.tobikan.jp> 5月中旬に開設予定）等でお知らせします。

図録

- ・ 7月26日刊行 定価 2,000円（予定）

Fax 送信番号 **03-3823-6920**

東京都美術館 広報担当宛

★Tobi_201604

掲載用素材として、画像を申し込みます。(該当欄の口にチェックを入れてください)

【注意事項】

本展をご紹介いただける場合のみお申し込みいただけます。

掲載時は、下記の作品クレジットを必ず入れてください。作品画像のトリミングはできません。

校正ゲラ等の段階で確認をさせていただきます。

掲載紙(誌)、DVD等は、下記の広報担当まで寄贈くださいますようお願いいたします。

- 國安孝昌《雨引く里の竜神》2013年 雨引の里と彫刻 2013 展示風景
- 國安孝昌《遠い地平》2014年 個展「遠い地平」展示風景
- 須田悦弘《バラ》2008年(参考作品)
- 須田悦弘《桔梗》2003年(参考作品)
- 田窪恭治《感覚細胞-2016・イチョウ》展示イメージスケッチ(水彩) 2016年
- 田窪恭治《感覚細胞-2016・イチョウ》展示イメージスケッチ(コンテ) 2016年
- 土屋仁応《森》(部分) 2012年 個人蔵 撮影:竹之内祐幸
- 土屋仁応《牡羊》2012年 個人蔵 撮影:竹之内祐幸
- 舟越桂《森の奥の水のほとり》2009年 個人蔵 撮影:渡邊郁弘
© Funakoshi Katsura, Courtesy of Nishimura Gallery
- 舟越桂《海をゆるすために》2016年 作家蔵 撮影:渡邊郁弘
© Funakoshi Katsura, Courtesy of Nishimura Gallery (参考作品)

チケットプレゼント(5組10枚)

郵送先

掲載(放映)媒体名:

種別 TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他()

掲載(放映)予定日:

御社名:

ご担当者名:

E-mail: _____ @ _____

TEL: _____ FAX: _____

* 記入いただいた個人情報は、本人からのお問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的にのみ利用いたします。

お問い合わせ 東京都美術館 広報担当 山崎・進藤
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
TEL 03-3823-6921 FAX 03-3823-6920